

2022 年度:こども園自己評価の報告書 庄内西こども園

評価項目	取り組み状況
<p style="text-align: center;">教育・保育方針 教育及び保育の目標 全体計画・指導計画</p> <p>こども園として特に配慮すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育・保育課程 ・ 教育環境の整備 ・ 研究の取り組み 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年の研究テーマを「すべての子どもが生き生きと生活できる環境づくり」とし、一人一人の個性を尊重した職員の関わり方について振り返り、子どもの発達やその時期に合った遊びの環境づくりに取り組んだ。子ども一人一人の発達の筋道を理解することが、個々に応じた適切な支援につながり“自分は大事にされている”という実感にもつながってきた。また、すべての子どもに分かりやすいルール遊びを繰り返し取り入れ楽しむこともできた。 ・ 園の3つのテーマについて考える機会を持ちテーマに沿った実践ができていくか振り返り、様々な子どもがいる中でどの様な活動や支援が大切なのか職員間で共有し実践していった。
<p style="text-align: center;">健康支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス等感染拡大予防として、園内の消毒や集団での適切な過ごし方など環境対策を取り入れ徹底した。 ・ 園児を対象にした保健指導や健康安全指導、生活習慣等に関する保育内容の充実を図った。 ・ 保護者から健康に関する相談が多くあり、一人一人に寄り合い丁寧な対応を心掛けてきた。 ・ 保護者と細やかに連絡を取り合い、園児一人一人の健康状態を把握し、職員間で連携して園児の健康管理に努めた。
<p style="text-align: center;">安全管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員が日常から危険箇所の点検を怠らず安全対策に努めた。危険が予測される所は速やかに改善していくよう心掛け事故防止に繋がった。 ・ 総合避難訓練では、南消防署から水消火器を借りて子ども達の前で実践練習をし、子ども達の防災への意識に繋がった。 ・ 自園は水害想定区域にあたり、全園児と職員で庄内西小学校への避難の仕方を体験し、いざという時のシュミレーションができた。
<p style="text-align: center;">食育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 菜園活動やクッキング活動を通して食への関心を育て、自分たちで作ったものを食べる楽しさを共感できた。 ・ 年長児は当番活動で献立を技能員に聞きに行ったり、クラスでお米を研ぎ炊飯器で炊く活動を積み重ねたりする中で、食への意識を高め自分でご飯が炊ける経験として取り組んだ。
<p style="text-align: center;">子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入園している子どもの保護者 ・ 地域の子育て家庭 ・ 地域との連携 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加人数を制限するなど必要な対策をしたうえで、保護者の理解・協力のもと園行事が行われ、子どもたちの成長を共に喜び合うことができた。 ・ 短時間だが3年ぶりに全学年がクラス懇談会を行い、保護者同士が顔を見合わせ話ができることを喜んでおられた。 ・ 地域の保護者の子育ての悩みを傾聴し、地域支援員との共有の中で具体的なアドバイスにより支援に繋げることができた。 ・ 保健センター通じて緊急一時保育の利用があり可能な限り受けていった。

<p>教育・保育内容</p> <p>・養護・健康・人間関係 ・環境・言葉・表現</p>	<p>「すべての子どもが生き生きと生活できる環境づくり」をテーマに各クラスで取り組みを進めていった。具体的な活動を考える前に、すべての活動には実際の子どもの姿からねらいを見極める必要がありその活動を通して子どもにどんな力をつけていくのかをまず意識することを大切にしていっていった。</p>
<p>特別支援教育</p>	<p>個人懇談で保護者と支援計画を話し合い、個々に応じた必要な支援教育保育を進めていった。また専門機関と連携を取りながら個々の発達や課題を多面的に捉えていくことで見通しを持った支援に繋がった。保護者のいろいろな思いを受け止める中で連携も図れた。</p>
<p>職員の資質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー研修や不適切な保育を防止するための自己チェックにより、職員の関わりが一人一人の子どもを尊重できているのか見直し、適切なかかわり方ができるよう会議等で話し合いを重ね実践に繋がった。 ・子ども理解のために観察・記録をできるだけしていき個人や集団での課題を探り実践に繋がった。
<p>幼保こ小中の連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児は近隣のこども園との交流経験ができ、就学後の仲間づくりに繋がっていくことに期待が持てた。 ・今年度は小学校見学が再開し、実際の学校生活の雰囲気に触れ就学に向けての意欲や期待に繋がった。
<p>関係者評価の取り組み</p>	<p>評議員の方に来園いただき、園の現状からこの1年で大事にしたいことや年間行事などを伝えた。子ども達の様子をみてもらったり遊びに参加してもらったりする中で、子ども達が主体となって取り組みながら協力し合う姿や、どの子も生き生きと楽しむ姿が見られ自信に繋がっていることを感じてもらった。</p>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの声を真摯に受け止め、職員間で共有し、一人一人がその思いに寄り添った対応ができるよう日々努めてきた。 ・子どものつぶやきや活動内容等をお便りや壁新聞などで掲示し、保護者にこども園の現状や子ども達の姿を伝えていった。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課題	具体的な取り組み方法
<p>教育・保育の質の向上</p>	<p>子どもの姿を適切に捉え、職員間で共有しながら子どもにつけたい力を常に意識した関わり方を実践していき、教育・保育の質の向上に繋がっていく。</p>
<p>教育・保育内容の充実</p>	<p>子ども達が主体的に遊んでいくために、一人一人の思いが尊重された中での取り組みを大切にを進めていく。様々な表現で自分の気持ちを出す子ども達にとっての集団でのルールについて追求していく。そのような取り組みを保護者にもわかりやすく伝え、保護者と共有していく。</p>

令和5年（2023年）3月31日

豊中市立庄内西こども園

園長名 仮屋 道子